



- 1 気象概況（果樹研究所 4月下旬）
4月下旬の平均気温は5半旬が14.6℃で平年より1.7℃、6半旬が17.7℃で平年より3.9℃高く、この期間中の降水量は2.0mmで平年の7%でした。

- 2 土壌の水分状況（5月1日現在）
果樹研究所における土壌水分（pF値：無かん水・草生栽培りんご園）は、深さ20cmが2.3、40cmが2.0、60cmが1.8で適湿となっています。

- 3 発育状況
 - (1) ももの満開は「あかつき」「ゆうぞら」とともに4月17日で平年より4日早い状況でした。
 - (2) なしの満開は「幸水」が4月22日、「豊水」が4月19日で、各々平年より5日早い状況でした。
 - (3) りんごの満開は「つがる」「ふじ」とともに4月25日で、各々平年より6日早い状況でした。
 - (3) おうとうの満開は「佐藤錦」が4月22日で平年より3日早い状況でした。
 - (4) ぶどうの展葉は「巨峰」が4月22日で平年より3日早い状況でした。

表1 開花状況

樹種	品種	開花始め			満開		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月12日	4月15日	4月14日	4月17日	4月21日	4月19日
	ゆうぞら	4月12日	4月16日	4月15日	4月17日	4月21日	4月20日
なし	幸水	4月17日	4月23日	4月21日	4月22日	4月27日	4月26日
	豊水	4月13日	4月19日	4月16日	4月19日	4月24日	4月23日
りんご	つがる	4月21日	4月26日	4月25日	4月25日	5月1日	4月29日
	ふじ	4月22日	4月27日	4月25日	4月25日	5月1日	4月29日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月19日	4月17日	4月22日	4月25日	4月23日

注) 平年値は、1981～2010年の平均値（オウトウは1994～2010年）。

表2 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月14日	4月19日	4月17日	4月22日	4月25日	4月25日

注) 平年値は、1988～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成27年4月30日発表)より

今後の気温の経過は、1週目（5月2日～5月8日）は高い確率が80%、2週目（5月9日～5月15日）は平年並及び高い確率が各々40%、3～4週目（5月16日～5月29日）は平年並の確率が40%となっています。

※ 気象庁では「天気予報」以外にも下記の情報も発表しておりますので、これらも参考にして管理作業や防霜対策を進めましょう。

○季節予報

1か月間や3か月間といった期間全体の大まかな天候を3つの階級で予報しています。

URL: <http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>

○最高・最低気温分布予想

一辺20kmの正方形のマス目にわけて、そのマス目の中の代表的な気温などを予想しており、翌日朝の最低気温の予想などが表示されます。

URL: http://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/data/kouon/t_maxmin.html

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

開花期から幼果期にかけては、耐凍性が最も弱まる時期ですので、気象情報には十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策として、防霜資材の手配と準備は必ず行うとともに、地温の上昇を図るため、下草は5cm程度に刈り込みましょう（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれがあるので注意しましょう）。

また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分の確保に努めましょう（乾燥条件は気温の低下を助長します）。

降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認のうえ、人工受粉を徹底し結実確保を促しましょう。

なお、各樹種の現在の生育ステージ及び安全限界温度を下記に掲載していますので参照ください。

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html>

(2) 結実確保対策

開花の時期は、直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に十分注意し、訪花昆虫の導入、開やくの準備、人工受粉時の労力確保などを計画的に行いましょう。

人工受粉の際に花粉を石松子等で増量する場合は、事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈を行いましょう。なお、発芽率が30%以下の場合は希釈しないでそのまま使用しましょう。

(3) 高温・乾燥対策

今後、降水量が少なく園内の土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を講じましょう。

ア かん水

10a当たり25～30tを1回のかん水の目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。なお、保水性が劣る砂質土壌等では、1回の量を少量とし、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草生管理

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょう。なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので注意しましょう。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病害

ア りんご黒星病、うどんこ病

開花期前後は、これらの病害の重点防除時期に当たるため、開花直前と落花直後に有効なDMI剤のいずれか一剤を散布し被害防止に努めましょう。

なお、開花期間が長引くような場合は、開花直前の薬剤散布から2週間以上間隔が開かないよう心掛け、満開から5日程度を目安に落花直後の散布を実施しましょう。

イ ももせん孔細菌病

県北地方では、4月中旬の春型枝病斑の発生ほ場割合が高い状況となっています（病害虫防除所、平成27年4月24日付け病害虫発生予察情報注意報第1号）。

第一次伝染源の春型枝病斑は開花期以降に発生し、降雨に伴って病原菌が分散し新梢葉に感染しますので、昨年発生が見られた園では、落花直後及び落花10日後に必ず本病の防除剤を散布し、初期感染の防止に努めましょう。

また、春型枝病斑やこれに類似する疑わしい枝枯れ等は、見つけ次第徹底してせん除しましょう。

ウ なし黒星病

中通り及び浜通り地方では、4月中旬の花そう基部病斑の発生が確認されています（病害虫防除所、平成27年4月24日付け病害虫防除情報）。

この時期は、本病に対する感受性が非常に高く、重点防除時期に当たります。このため、開花期の前後に本病に効果が高いDMI剤を10日以上間隔が開かないように散布しましょう。

また、天候等の影響で散布間隔が開いてしまうことが予想される場合には、受粉が十分に行われた後（満開5日後頃）に落花直後の防除を行いましょう。

なお、第一次伝染源となる花そう基部病斑は見つけ次第除去し、伝染源の密度低下に努めましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

第1世代幼虫の防除適期は4月27日頃であったと推察されます。初期の発生を抑えるため、速やかに落花10日後の防除を行いましょう。

イ ハマキムシ類

今後の気温が平年並に推移した場合、リンゴモンハマキの越冬世代成虫の誘殺盛期は5月4半旬頃と予測され、リンゴコカクモンハマキもこれに準ずると予測されます。

複合交信かく乱剤を導入する園では、これらのハマキムシが発生する前の5月3半旬頃までに設置を完了させましょう。

ウ その他の鱗翅目害虫

今後の気温が平年並に推移した場合、ナシヒメシンクイの幼虫の防除適期は5月1半旬～2半旬と予想されます。ミツバチ等を導入している園では、巣箱回収後、速やかに防除を行いましょう。

エ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃であったと推察されます。越冬卵密度の高かった園では、落花期以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達し次第、殺ダニ剤を散布しましょう。

オ カメムシ類

カメムシ類（クサギカメムシ）の越冬世代の成虫による被害は、幼果の時期から見られることがあります。特に山間部や山沿いの園では、飛来状況をよく観察し、集団的な飛来が見られた時点で、速やかに防除を行いましょう。

表3 果樹研究所における防除時期の推定（平成27年4月29日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	—	4月27日	5月13日	5月26日
平年並	—	4月27日	5月16日	5月31日
2℃低い	—	4月27日	5月22日	6月8日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL：<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7339
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>